



綾足漫遊記

三



1157



建。後。是。夙。生。於。輿。羽。之。境。
其。心。廓。然。不。芥。於。中。性。嗜
國。風。俳。諧。願。極。玄。奧。旁。好
繪。事。尤。善。山。水。花。鳥。自
號。字。葉。齋。所。輯。畫。譜。畫
帖。遠。見。於。世。為。富。貴。因

非吾所願也。故襄韜游歷於
四表。竟襄王所見。閻著一書。
直隸漫遊記。予謂伊人嘗知夫
天地之與吾。相為主宰者乎。蓋以
吾身而寄於天地。身凡所見。笑
茶象萬類。以吾之所以主。

夫天地之與吾。以為樂者
也。又以天地之寄於吾。則所
見。閉象萬類。以吾之所
以主。夫吾而用以供吾之樂者
也。然彼古之賢人君子。達神
化。通天人者。其論不有於茲。

但尋常之士。雖筆鏡干
將。而墨含甘液香。其意
非深避世之腥腐穢濁之
象。而寄蹤山川之勝者。奚
得伸己之操。以逞一家之介
邪。今此老。就其所見聞。稊
事之起端。槩為世之閑奇談。與
接掌而喜者多矣。且其國詞
之工。雖似誇世史。非頗闕典雅
之書。能較之。前。後。輔翼乎學
者。亦不鮮矣。能知後足者。游
愚之社。中有舊託之。逼乞篇

首一語而不錯焉。故執而一覽
畢。使世人知此篇全非筆益
之書如此。

寛政戊午八月

拙古老人



○ 漫遊記目錄

○ 壹之卷

○ 若狹の國に孝女

○ 辰之りれいふまゝ

○ 石

○ 舟のちり

○ 親の徳をすて打の

○ 貳之卷

○ 今ぬとじ

○ 抱きしめりて代り死

○ 妻の代りて書け名

○ 雪の葉よほりて

漫遊記目錄

三之卷

○ 又月れひうり物

○ 容の噂いなる

○ 江戸根岸まで女の
住居を求め

○ 蝶よ命をれし人

○ 以上

○ 目録終

四之卷

○ 浪子の婦人とるねの
心をはらふ

○ ひとをたの
舟のつら

五之卷

○ 男が恋する女

○ 分味言成り癖

漫遊記卷之壹

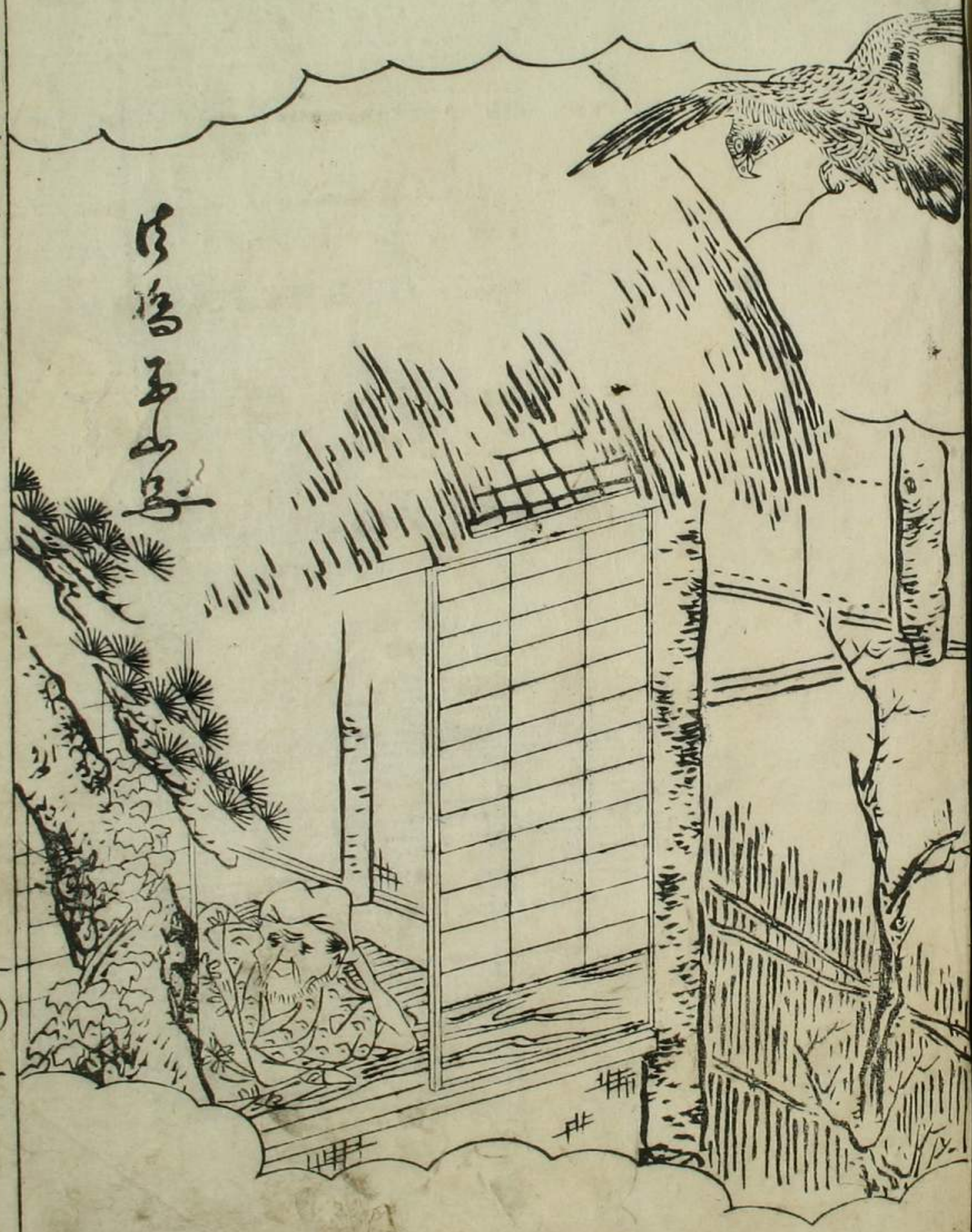
○ 若狭乃國の孝女

綾足著

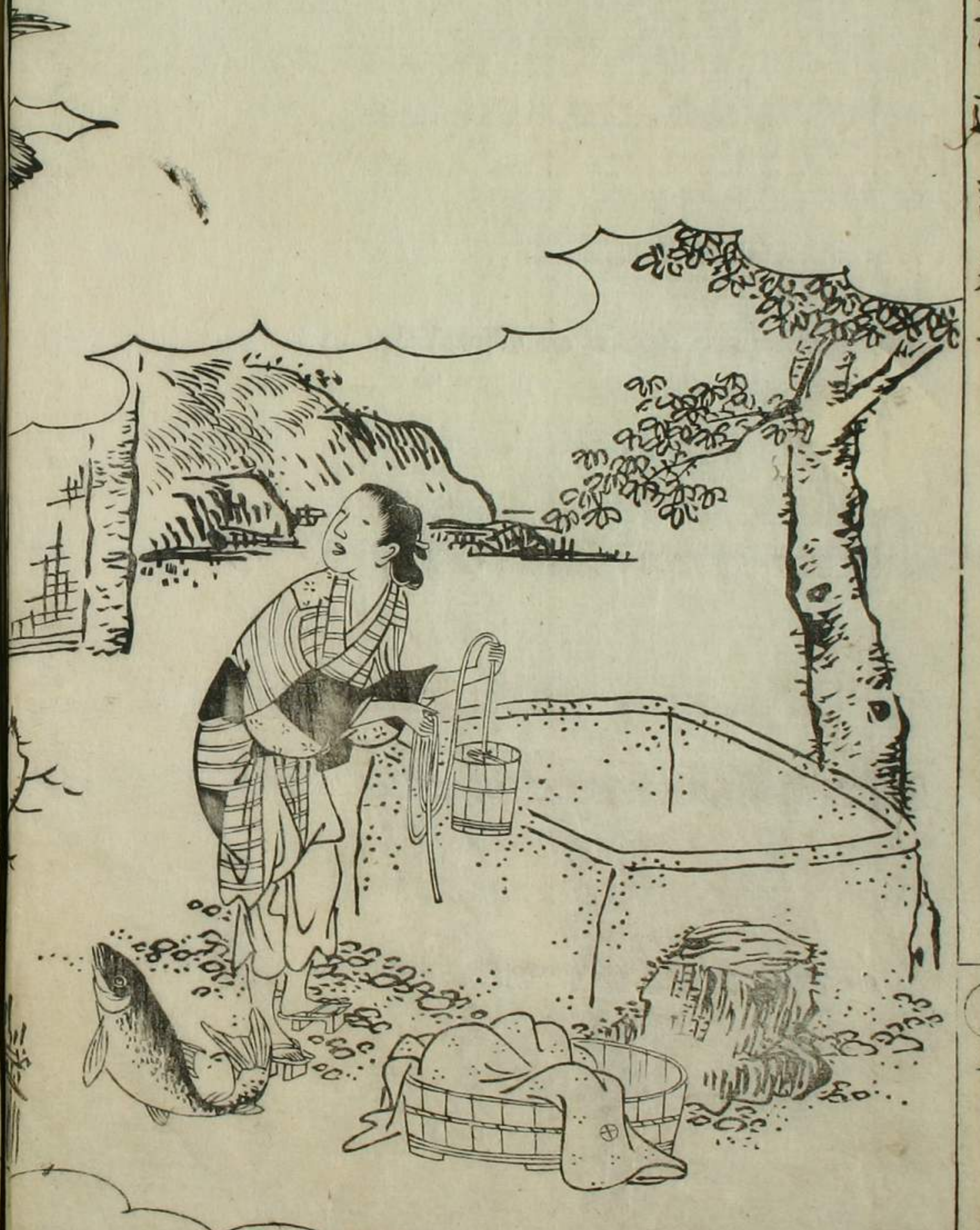


門 特
號 1157
卷

若狭の國三方郡早瀬とらふ西よとまづくして住む女有
りしが名氏とよびて舅の年老るまはるる孝とあし
そらぞたえんをさへはよたんとけりる。け女十四の年
うりはあまの舅姑のいむはうとさる後よかなし。
おのぼりなる情をわらうりはあまの姑をむく
独りよあまの後いそらうなるをさへらんとてをいひて
けりる。後加へけりるほどは舅七十年よ



烟庄已卷一



たるなり。それはいかゞ楽々として石を滑らまふのよきなご
 といひ侍るふらむをさうして目も乾石のどく本る成務して
 酒よまじく吞せぬも尻はびびりていくたふらむとて
 まてもいづらうさぬは尻のどくも出るたうらむとて加賀の男
 免てて此茶をまるとさくらる。後さういふのこらうしてた々
 又ゆらぐる親一と一門旧き朋友うらうらうて酒のまて
 あそびたるは目比まうとてさういふも彼男の國はうり
 といふさとの人として二三人の侍達つれあふまう。さうして
 酒酌しそびらふおほかの男都てなういづら尻はびびり

のこらうががくさういふもさういふもさういふもさういふも
 けうらうさういふもかまふおふこも尻はびびりて茶をまて其切らう
 ちあふとてゆらうさういふもさういふもさういふもさういふも
 ま。さういふもさういふもさういふもさういふもさういふも
 潤く合せ彼男は酒はびびりてさういふもさういふもさういふも
 俗いさういふもさういふもさういふもさういふもさういふも
 ぬるふ。人々も皆解く上下お交り男も女もさういふもさういふも
 さういふもさういふもさういふもさういふもさういふもさういふも
 んとして。解きあひらうてさういふもさういふもさういふもさういふも

大和の國上品寺とらへ里よりとびる時りく人あはる
 せし我従弟の高取とらへ膝下土佐とらへふの者なり
 かく人々音信のたよりあられど行く訪人ははる月
 旬とらへとあはる時たれが鈴七らの時よりま出く日
 生ぬるといそごわくたやと里をるるもさうぬまは
 夜の明んを待いかくこよまうは着座とまあひしていふ
 道成とまご由くまがの従弟のえくま今五丁とらへあて
 やりく東のやまをさくもやくとまうぬかへ休ませがや
 とたれいごこのほより時をるるもさうぬまは

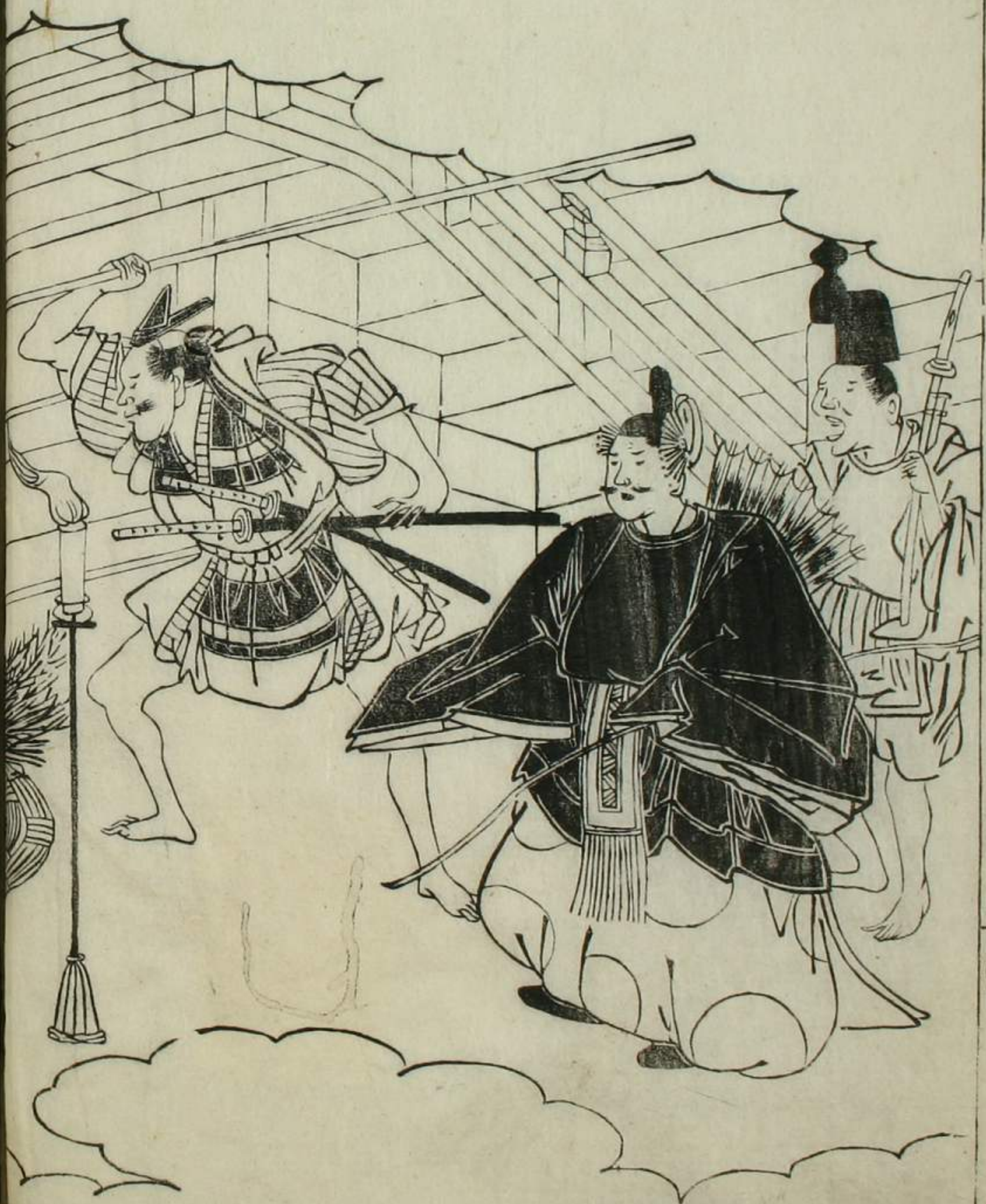
かひてせとらへんち草の中よりとらへる石の
 る紙ん中へ是は腰つとらへて休まんとはとと柄などの多
 からんへ紙おそれせとらへては紙打りけり起し
 形よりいひとらへくたをさへ二尺をるるもさうぬまは
 是をいひて道の真中よりとらへて石の上にお
 へお腰つけそれでは石やとらへてさうぬまは
 なとのぬまはさうへ居てさうぬまはぬまはさうぬまは
 おとらへやとらへなる石の有とらへてはぬまはさうぬまは
 うらとらへをた出たをさうぬまはさうぬまは



これども福人よとれく侍らまど。とくもあひさし
 かそらち。髪よりはじめは髪耳のさつちまで。か洗よ
 洒らさる。まて入つて。おひらびらる。人となりて。衣さる
 けの程のをれ。とくも。とくも。おからん。とくも
 とくも。く。まのまざれ。とくも。それのお。とくも
 とくも。いひさし。とくも。ま。とくも。臣の本の。とくも
 枝の。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 とくも。の。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 かと。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 たり。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 よ。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 そ。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 の人。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 て。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 今。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 た。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも
 侍。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも。とくも

漫遊言卷二

漫遊記卷二



漫遊記卷二





菊よまゝとつみ昔うかほとのそまうと。物部ら
或翁のこれうそまへはる是よそまうぬ気の作りし
とらう編うこそまへ國中ゆたうはらうなる
まういまゝまて作りしとかそまう

○蜜の蜂よ成

吾々の奥まう蜜蜂とらあとういそまうの蜜よ
とらとそまをせり。是を養ひ一人のつらうまう
是とまらむむらう。いづれとまのいづれの本よ
いづれとまらむむらう。いづれとまのいづれの本よ

ぬまて改らうとそまえてはまのうらまでもおま
蜜とぬまて行なう。とて其巢をそまむとらう
多く花を。其人をそまうとそまはむとそまはむも。
其蜜の香とら知らう。おのれがなう。おのれがな
とらとらとらう。其巢とら永たまはらう。蜜の
ぬまてとらう。後とらとらうとらうとらうとらう
蜂とらとらう。後とらとらうとらうとらうとらう
後とらとらう。後とらとらうとらうとらうとらう
とらとらう。後とらとらうとらうとらうとらう

いとやーがアそぞめさあしむるれさるる客の
かきぬアアアアアアアアアアアアアアアアア
なりてアアアアアアアアアアアアアアアアア
いふはアアアアアアアアアアアアアアアアア
してアアアアアアアアアアアアアアアアア
葉よアアアアアアアアアアアアアアアアア

○江戸根巻と女の住居と氷

むさーなる江戸の春もどろろろろろろろろろろろ
後とろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
門を流布葉本の林とがせう川のやと屋とよ移と
かろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
あはれろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
あ居たもろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
いさろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ
ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ



ちぢらうくちーおまごころ。まごころはー^{ふま}耐繪^{たええ}ー^くころ箱^{はこ}よ。
 ろろりれ紐^{いひ}の層^{かさ}たうくたもごころとどれく内^{うち}なる。まご
 のく紙^{かみ}をまごころして。たれをまごころーおまごころご
 まぬ。ころころぬきまごころたてはまごころ由^{よし}ごころま
 の紙^{かみ}をまごころまごころかごころ。まごころ後^{あと}まごころ
 かひたごころかごころまごころけ給^{たま}からんと。我^{われ}はま
 ごとまごころまごころまごころせん。まごころまごころ
 まるれごころのまごころ片^{かた}をまごころまごころまごころまごころ
 ぐ筆^{ふで}まごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ

んごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ
 入^いぬまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ
 別^{わか}ごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ
 まごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ
 丸^{まる}まごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ
 彼^{かの}まごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ
 んごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ
 ちまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ
 ながまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころまごころ

いとわろしき一むと一かば。そのぬのさぬまをばいおほ
 らんぞ。そと隣なる庭の木のさへも咲不こりてけりし
 正しきまよてふさしたる屋根よ。さそりてたきつも入るるさ
 らくおがへそり。其家ささささささささささささささ
 けらばさささささささささささささささささささささ
 それがほごよあも清なるやとあひひく不どよせんよん
 とはささささささささささささささささささささささ
 そがらるるや。かくと知はばうはらむといひく。水の名
 又いさるる人さささささささささささささささささささ

まささささささささささささささささささささささ
 ささささささささささささささささささささささ
 けりしはもあつてさささささささささささささささ
 よさささささささささささささささささささささ
 一たう一常の時ささささささささささささささささ
 るあささ。おささささささささささささささささ
 さささささささささささささささささささささ
 ひささささささささささささささささささささ
 くと押開く。さささささささささささささささ
 ささささささささささささささささささささ

るをとり入るる。室の癖なびり。此性うり。たえ
 してやうんとして。夫の打撃をてうら。たつて酒
 呑むとせざや。とらひきりぬまぶ。やまう。さるさ
 として。これ男と。うらうて。さるさ。い
 かす。ぬん。性。うらうら。さるさ。い
 は男。大。多。と。や。い。ま。や。あ。う。く。れ。い。さ。け。び。て。は
 たり。こ。さ。さ。い。げ。い。ら。く。ま。い。ら。ら。ら。さ。ら。い。ま。く。ま。も
 なく。形。り。よ。ら。う。さ。て。こ。さ。く。せ。さ。ち。な。成。り。ほ。つ。さ。て。て
 ぶ。さ。ぬ。ら。い。た。ら。い。は。仰。向。い。ぬ。よ。た。ら。い。ま。さ。ら。い。ま。さ。ら。い
 び。ん。し。し。れ。く。か。い。あ。い。こ。い。ま。ま。さ。ら。い。ま。さ。ら。い
 氷。さ。ら。い。死。入。ぬ。さ。て。ア。ん。あ。ら。う。ま。ら。う。さ。ら。い。性。ど。う。う。鼻
 の。孔。よ。さ。い。今。さ。ら。い。も。さ。ら。い。死。を。う。ら。う。物。牙。な
 ども。け。ら。ん。さ。ら。い。後。さ。ら。い。が。は。ら。う。知。さ。ら。い。れ。ど。が。さ。ら。い
 とい。お。ん。さ。ら。い。ま。ら。い。は。ぬ。び。さ。ら。い。の。ま。う。さ。ら。い。な。ら。う。は。ら。う

漫遊記卷之三終

漫遊記卷之四

○浪義の富人狐の児と得る



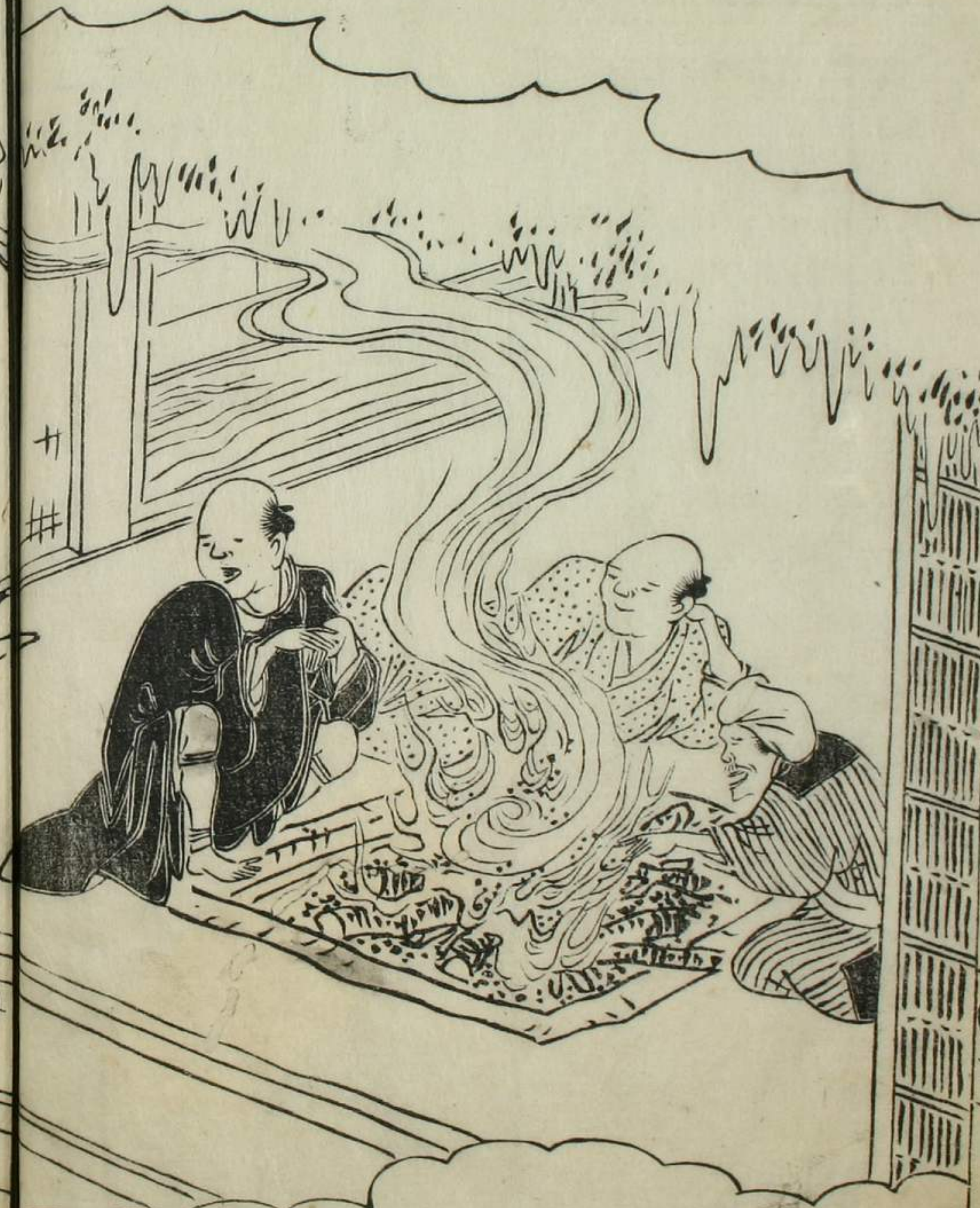
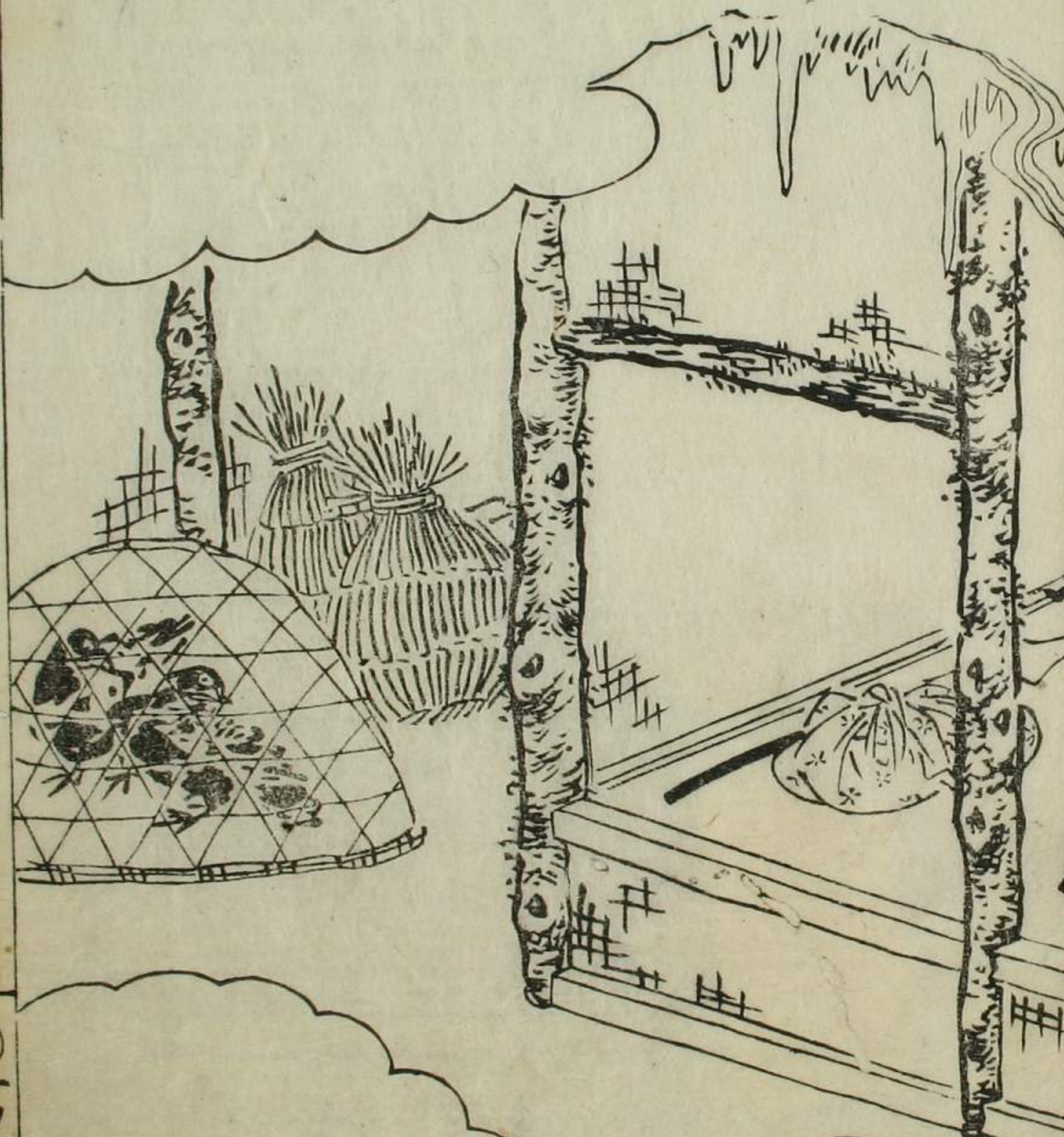
浪義の浦よおほくの夜ととらてかきとこころを
 作り男秋のいとおいに誘くなりぬとこいひやとた
 ちいさなうい比良地のかきよよけよこがき口と入
 りとりと通る作りちりとたにやしにやまにたよ
 あらむいともいされ檻よ今作り鬼のみことんれが
 狐のみとて作りたり除らしくおひく。是賣らむや
 とのい入させられまらうに男これちうりさうぬ

せんぞらなとこもあるとららも物なは
 らひ物らん今つひんやとてくれと人よあやとて
 さしづぶうれしげなるさぬよつんえん
 ぼと目もとるなとてぬとらなるよとら
 物しづぶのけりといそくかそれらるや
 眼とさぶく死るるさて長なるも
 ましたそなる救ふよ今竹と押おそれとて土
 と物くはやく彼もがかくて成かくとせぬ
 うりてる乳といひぬ飯とわけてやなひて
 なるよれいさくさむらふなり彼ん後我
 訓さしむるをて櫃の口とわけて
 されをちたとも彼人見とてさうにわ
 たりしはぬはぬとらなるもさ
 是らひとて我より人後人後よ養
 てのち我家の守と種よいそく社
 位をよかしくなむとて價と種
 てさうせんとなむけしとら
 てんなるよお遠路も人づら

せんぞらなとこもあるとららも物なは
 らひ物らん今つひんやとてくれと人よあやとて
 さしづぶうれしげなるさぬよつんえん
 ぼと目もとるなとてぬとらなるよとら
 物しづぶのけりといそくかそれらるや
 眼とさぶく死るるさて長なるも
 ましたそなる救ふよ今竹と押おそれとて土
 と物くはやく彼もがかくて成かくとせぬ
 うりてる乳といひぬ飯とわけてやなひて
 なるよれいさくさむらふなり彼ん後我
 訓さしむるをて櫃の口とわけて
 されをちたとも彼人見とてさうにわ
 たりしはぬはぬとらなるもさ
 是らひとて我より人後人後よ養
 てのち我家の守と種よいそく社
 位をよかしくなむとて價と種
 てさうせんとなむけしとら
 てんなるよお遠路も人づら



由へばどうらう乳としてぞとていらさるゝ侍らざるやかく別
 てら侍らなうがくやうも妹がかゝるを侍るとは
 おたうとてひとほよたれたるを人をもそらわしとて侍
 るおらんまゝ居らるゝとぞとてさう愛よいと川の鯉ひ
 のよじらうをやなやとて侍らなうぞやのうらる根傍の
 森としてびみびきとけ侍らうしんまが事よからさく
 やとさくみまをまを我くまうて侍るとさくひま
 まつらむ方便もたう。其方便をまよかいらん侍らぶ。
 ありいの中よとていさうせてけよがいのちとほほほとら
 礼と妹がたれたらどかくー侍ひー礼と成ひとて礼
 報ひまうとておひさかんとや。いもいらさうけ侍
 ららむとてを女けーさうらたをまゝ世の人とて報ひ
 ちとらうたれとていとむくひにーとてらうけたと
 いふ侍らうとてらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 侍らうとて及ぶぬとていと川を世よいらうらうらう
 て報ひせんともうらうらうらうらうらうらうらうらう
 けよとかとまゝく彼よむくひとらうらうらうらうらう
 ちのもが罷よるむたうらうらうらうらうらうらうらうらう



やどりせん借後へとりをせりしむて居の付ひはくさう
 してさぶらふかきとを借る後をさうの付ひさう借代
 といふ糸をを海紀と又人さうのばくさう雪の中
 の住居して作るよ何まつせんかのいとなし。海紀と
 して後とりみえ人遊よさうの由して岩の座よといひて
 る斗よおの卯よとりてせん火紙をよよそをせしめら
 ぬむよぬまきく火ほくを煙をまきこえくつせしめ
 つくつたりなしてさう居るのよさう居るさうとさう
 をさうかどうよせしめかひおる。さうかどう居るよ
 させむいぬいやとりさうさうさうさうさうさうさう
 を知して作るさうなれども西南の國乃とやとまはさ
 一年ら時をたぐくまて死よ。國ははくさうある
 友よ。無らうしてさうさうさうさうさうさうさうさう
 見はく。花さうさうさうさうさうさうさうさうさう
 岸も川もひそ白とて何れもさうさうさうさうさうさう
 いとほく。さうさうさうさうさうさうさうさうさう
 いさ嵐の吹もく作るよ。さうさうさうさうさうさう
 かからむよ。花さうさうさうさうさうさうさうさう

水邊言卷四

〇一三

信を人のおろしそらぶそれとておんまむおごりち
 及してゆまのうせんとしておはせまき生ゆかりよその
 ちかまらねぢおどそらそのお人おほく居ゆけしごと
 も清もるおおくおびたごひよどのものもいそでそれいそ
 とやういいて出及とらうお清もしてゆりーが
 何といひほろゆけしとめゆりごとお今おあ
 もさうゆゆりそとゆいそけもひくわぶ細やごてか
 このおどそくゆりどのの不どん女斗たふむとら
 さそいいうらうこの夜とちあうてゆり帯らにゆてゆ
 とどくおそれちおがえととおうらふごらちちか
 らべのそとま屋の侍ひ人のゆきあてゆりそと
 おがへ後ゆととちけゆりようていそお清もあえ
 ならむとそ女どののちかひほけゆりゆりゆれど
 侍れがゆてまらむとそ行ちらかゆりゆをさゆく後
 花男とんゆぬ款してかこよあつーがそれち我よ
 けいひくおいそむとそまゆりよかと同くごさそいあ
 忍のゆとならぶーけ方の侍ひゆり治まのゆりこ
 とそかこもゆりぬりのとそゆかまこよまゆりゆり

とどくおそれちおがえととおうらふごらちちか
 らべのそとま屋の侍ひ人のゆきあてゆりそと
 おがへ後ゆととちけゆりようていそお清もあえ
 ならむとそ女どののちかひほけゆりゆりゆれど
 侍れがゆてまらむとそ行ちらかゆりゆをさゆく後
 花男とんゆぬ款してかこよあつーがそれち我よ
 けいひくおいそむとそまゆりよかと同くごさそいあ
 忍のゆとならぶーけ方の侍ひゆり治まのゆりこ
 とそかこもゆりぬりのとそゆかまこよまゆりゆり

夢と折ひそめく。何とやらあつらぬど仏のほろりど
 唱つるも。うら女どもちひとひよこぞりて袖引合ふど
 して。息もせでゑどく。つらふかの国からかきまぬ
 ていそく折るるくさぬなれど。なぞらどしものら
 よう。ゆらゆら。西をもちり。くまもすも。わやく
 ほろ。いづもあもほく。まが。かたりて。こほとま
 後。ひとらねし。まが。むと。いふ。後。ゆらぬと。なり
 をとら。公の。飛。ま。て。不。信。ほ。と。とな。ん。け。後
 心。も。は。い。づ。も。う。る。後。り。し。う。す。て。ぞ。れ。く。い。づ。ば

か。つ。の。こ。も。せん。と。り。あ。く。ゆ。め。か。よ。ち。あ。ま。じ。物
 て。な。を。ま。ほ。う。て。く。ゆ。も。ど。け。堀。川。なる。男。ち。い。ま。さ
 ゆ。り。ち。あ。ま。ま。ま。ぞ。が。所。友。を。と。ゆ。も。ま。な。い。づ。も。は。わ。て。ま
 ら。さ。ら。こ。後。も。な。し。それ。あ。ち。た。ひ。共。げ。と。と。ら。も。あ
 さ。む。ら。い。と。れ。と。そ。も。何。ぐ。業。を。て。後。し。く。も。は。く。も
 多。る。も。ま。だ。それ。ら。い。づ。れ。か。か。り。ゆ。り。ま。せ。ん。あ。若。い
 く。ち。あ。ひ。ゆ。ら。ぬ。ど。そ。の。P。て。ゆ。ら。ば。も。う。か。け。後。く。ま
 ら。の。身。も。も。も。り。て。表。な。ら。む。い。づ。め。が。い。づ。ら。ゆ
 後。く。ま。も。ゆ。ら。ぬ。え。と。そ。を。ゆ。ら。ま。の。い。づ。せ。い。我。ら



らるるらゝふ。れ愛もさあられが人^{ひと}ともうと
 けえしや^ま親のいうともゆ^ゆにけ^{この}不^ふと^よ信^ま
 づ^{その}ゆ^ゆまさらまらふ^まづ^まさ^まけむ^まの^まお^おん^んま^ま
^{もの}物^{もの}痛^{いた}む^むゆ^ゆら^らら^らら^らら^らら^らら^らら^ら
 と^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 て^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 け^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 せ^まじ^まと^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま

人やまもえら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 ら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 づ^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 と^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 ら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 と^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 ら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 と^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 ら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 と^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 ら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 と^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 ら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 と^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 ら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま
 と^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^まら^ま

漫筆言卷五

おのゝこころよ。むねもさかづりて人々の乃路ゆふいと
さく再しむらびでほ寺のかさ城かんくゆくしれた。だ
畑たごのまのぶるでくはく。まのつらまアムー
いゝおろく。かて佛乃ほるまじくゆらるるよ。清うせ
ゆりちり。衣たるゆりまて。今らあひとりづてまた
ちりよ。田かぢり。ゆきさられく。まてもさるまうして。ちん
く。まねらりちりまらるまぞ。ふるま。魂のかうひざらや
ま。ほひらんとて。なけぢが。かのちりな。し。い。お。ま。い
く。抱ぢ。おら。を。こ。ろ。く。く。あ。う。と。お。不。し。て。ま。お。た。の。こ

て。ま。ま。ぞ。お。ら。く。く。は。か。ん。の。ひ。ら。ま。い。く。い。ま。ま。く。く。ゆ。ら
と。く。ま。の。袖。を。た。か。ま。ら。て。な。く。ま。ま。は。く。く。も。ま。の。上。ま。う
ち。り。ゆ。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。の。清。く。の。り。ま。ま。ま。ま。ま。ま
い。い。出。く。く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。ま
く。乃。山。よ。人。や。り。て。は。く。く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
な。ま
ま。ま
ひ。ね。ま



かさづ〜らういびさ〜らせ〜
 中ららむと終〜田部〜
 やふ〜らみ部やふ〜
 お〜らみ部び〜
 りぞ〜ら〜
 田部又び〜
 羽なり〜ら〜
 ろ〜射ておとせ〜
 と〜ら〜

不〜ら〜
 た〜ら〜
 り〜ら〜
 何〜ら〜
 ち〜ら〜
 は〜ら〜
 て〜ら〜
 や〜ら〜

まゝく合あせくさむらんと。事ことをらうらうらぬまやうと
るもなほなほなむらうとこのめまほひくこと射あ射えのうとさ乃
ままさうらうらとハハおんぐおふくしてそのままくまはくまほくまほひ
くくおやおさうらう

漫遊記卷之五 終

漫遊記

後編

近刻出来

寛政十年戊午十一月

皇都書肆

寺町二条通下

鉛屋安兵衛

中橋筋五町南

扇屋利助

浪速書肆

同 與市

